

2025 年度 施設関係者評価委員会 議事録

日時：2026（令和 8）年 1 月 23 日（金）14:30～15:15

評価委員出席者：赤澤淳子委員（福山大学人間文化学部教授）

平木滋子委員（瀬戸内不動産役員・国際ソロプチミスト福山会員）

門田律子委員（社会福祉法人つくし会理事・みちのうえこども園園長）

青野篤子委員（社会福祉法人つくし会理事）

園側出席者：甲斐弘美（こどもえんつくし園長）

土井美知子（こどもえんつくし副園長）

場所：こどもえんつくし フォレスタ ダイニング・ホール

資料：こどもえんつくし教育・保育課程

こどもえんつくし紹介パンフレット

評価シート

<議題>

0. 議事に先立ち、甲斐園長より挨拶

1. 議長の選出

赤澤委員が議長に選出され議事に入った。議事録は青野が作成することになった。

2. 議事

評価表の項目に従って委員から意見を述べ、園から回答があった。

（1）教育・保育課程（表をもとに）

○ 昨年度からの変更はないか

⇒ 今後、保育・教育要領が変わる予定であり、それを反映した変更が必要となる

○ 「一人一人の特性に応じた保育・教育」とあるが、多様性や個性の尊重も重要であるが、集団の意義が問われることになる

（2）教職員について

○ 不適切保育の問題はないか

⇒ 教職員が内外の研修に積極的に参加するよう奨励し、学んだことを園で共有するようにしている

○ 教職員の定着率はどうか

⇒ 近年は定着率がよくなっており、相談体制は整っている

（3）子どもについて

○ 「だれでも通園」は始まっているか

⇒ 現在は試験的な導入であるが、2026 年度からは正式に始まる

○ 病後児保育事業は円滑に行われているか

⇒ 利用はないが、制度としては定着している

（4）園内・園をとりまく環境について

- 新しく設置された遊具は活用されているか
 - ⇒ 子どもの創造性を促す遊具となっている
- 自然に触れる体験（歩くこと）が大切なのではないか
 - ⇒ 近隣の環境の変化で近年少なくなっているが，それも大切と考える
- （５）地域・保護者との連携について
 - 保幼小との連携はどうか
 - ⇒ うまくいっている
 - 地域との連携はどうか
 - ⇒ 職員が地域の行事に参加するなどしている
- （６）その他の意見
 - ホームページの更新をもう少し頻繁に行ってはどうか
- （７）園からの補足説明
 - 園の紹介パンフレットをリニューアルした
 - 定員を 160 の適正規模とした
 - 創立 50 年を迎えるにあたり，50 年史の編纂を始めている
 - 職員の自己評価も実施し，それをもとに管理職が面談を行った

以上
文責：青野